

# 中学校道徳科内容項目「よりよく生きる喜び」を扱った 道徳教材の指導の在り方

－「二人の弟子」の授業実践から－

しのはら たかお  
篠原 孝雄

**抄録：** 修学旅行とのカリキュラム・マネジメントを図り、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」において、誰に対しても人間としてのよさを見いだしていこうとする態度を育てるべく、道徳科授業を設計した。授業で扱う教材「二人の弟子」は長編のため、中学生が理解し、深めていくには難しい内容であるが、登場人物の心境やその動機を探っていくことで、本授業のねらいに迫っていった。

一方、テーマが壮大であり、ねらいに迫るための発問づくりが困難であるため、内容項目 D-(22) で道徳科授業を行うことは、現場教員から忌避されがちである。そこで、本稿では D-(22) がテーマである教材を扱った授業実践について報告するとともに、D-(22) をテーマにした道徳科授業の実践の敷居を低くするための意識の持ち方について提案を行った。

**キーワード：** 道徳科授業、よりよく生きる喜び、D-(22)、二人の弟子

## 1 はじめに

### 1-1 研究動機

今日、テーマパークや観光地を巡礼する修学旅行が数多く行われている中、本校では生徒一人ひとりが自己の内面に向き合うとともに、互いに率直な意見を交わし合い、意思を表明する活動である夕礼（せきれい）の実践を通じて、よりよい学級集団を育成することを修学旅行の目的の中核に位置付け、これまで約半世紀の間、大自然という非日常を提供してくれる乗鞍高原で修学旅行を実施している。修学旅行中、毎晩行われた生徒の自治的な話合いの場である夕礼を通して、本校の中学3年生は、団結するためには、「互いに信頼し合うこと」が大事であるという結論に達した。しかし、修学旅行が終わっても、1・2年時に構築した人間関係に固執し、新しい人間関係を築くことには依然消極的であった。その理由の1つとしては、クラスメイトの悪いところばかりに目がいき、内容項目 D-(22)「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間のよさやすばらしさを見いだしていこうとする態度」が育っていないことが考えられた。

一方、テーマが壮大であり、ねらいに迫るための発問づくりが困難であるため、内容項目 D-(22) で道徳科授業を行うことは、現場教員から忌避されがちである。そこで、本稿では D-(22) がテーマである教材を扱った授業実践について報告するとともに、D-(22) をテーマにした道徳科授業の実践の敷居を低くするための意識の持ち方について提案したい。

### 1-2 研究の目的

上述の生徒の実態を踏まえ、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」において、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いださせるべく、「ねらいに迫る発問づくり」と「道徳的価値の理解を深められる板書」の2つの手立てで道徳科の授業を設計する。そして、道徳科の時間における、内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」を扱った教材の指導の在り方について、「生徒のワークシートの記述内容を分析」することで考察していきたい。

また、指導にあたっては、道徳科の時間を要としながらも、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を計画するために、総合的な学習の時間、特別活動とのカリキュラム・マネジメントを図り、「よりよく生きること」についての考えを深めることができるようにする。

## 2 研究内容

### 2-1 研究方法

#### 2-1-1 ねらいにせまる発問づくり

道徳科の時間が、国語科のような詳細な読み（読解）にならないように次の3つの発問でねらいに迫る。1つ目の発問は、主人公が道徳的に変容する以前の場面における主人公の「道徳的問題や課題」を明らかにする発問（before 発問）である。2つ目は、主人公が道徳的に変容する場面における主人公の「道徳的な気づき」を明らかにする中心発問である。そして、3つ目は、本時における「道徳的価値」をおさえるテーマ発問である。これら3つの発問に精選して、内容項目D-(22)「よりよく生きる喜び」を深める。

#### 2-1-2 道徳的価値の理解を深められる板書

生徒たちが、視覚的に自らの考えを整理し、道徳的価値の理解を深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりできる道具が板書である。板書を構成する時は、主人公の考えの変容などを対比し、心の動きが分かる構造的なものにしていく。そうすることで、1時間のねらいである道徳的価値が明確になり、生徒たちはその価値についての理解を深めやすくなったり、自分の考えと比べて、様々な視点から物事を考えやすくなったりする。また、多様な意見が出る場合は、似たような意見をまとめたり、対立する意見を際立たせたりするなど、思考の流れを視覚的に整理する。

#### 2-1-3 生徒のワークシートの記述内容を分析

生徒たちに、道徳科の時間において考えたことや感じたことをワークシートに書かせることによって、ねらいである内容項目D-(22)「よりよく生きる喜び」に迫れたのかという生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、生徒のワークシートの記述内容を中学校学習指導要領解説をもとに内容項目ごとに分類し、分析することで、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料とする。

月 日 道徳 「二人の弟子」 3年〔 〕組〔 〕番名前〔 〕	
◎ 今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。	
1. 教材はよかったか。	大変← 5 4 3 2 1 →全く
2. 共感や感動をしたか。	大変← 5 4 3 2 1 →全く
3. 新しい発見があったか。	大変← 5 4 3 2 1 →全く
4. 自分を振り返り、考えることはできたか。	大変← 5 4 3 2 1 →全く
5. 授業全体を振り返ってよかったか。	大変← 5 4 3 2 1 →全く

図1 使用するワークシート

#### 2-1-4 道徳的価値の理解を深められるカリキュラム・マネジメント

道徳科の時間を軸に、総合的な学習の時間、特別活動などとのカリキュラム・マネジメントを図り、1年間を通した総合的な道徳教育を計画する。

### 3 「二人の弟子」の授業について

#### 3-1 対象者

大阪教育大学附属天王寺中学校 74 期生第 3 学年 144 名（男子 72 名、女子 72 名）

#### 3-2 実施日と学級

令和 4 年 10 月 28 日（金）C 組、11 月 4 日（金）A 組、11 月 8 日（火）B 組、11 月 12 日（土）D 組

#### 3-3 ねらいとする価値について

ありのままの人間は、決して完全なものではなく、誰の心の中にも弱さや醜さがあり、それと同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心ももっている。つまり、人間は、総体として弱さはもっているが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。また、「気高く生きようとする心」は、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心であり、その気高さは、自分の義務を遂行できたとき、他者との絆を守れたときや本来の自己を取り戻せたときに喜びとして感じる。このことは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことのできない自己の強さであり、気高さである。つまり、人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく表裏一体の関係であるといえる。道信の生き方から、「人間の心には弱さや醜さがあるが、同時に人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心ももっている」ということを学び、だからこそ人間のよさやすばらしさを見いだしていこうとする態度を育てたい。

#### 3-4 教材「二人の弟子」について

「二人の弟子」は、長編の内容であり、中心発問の「白ゆり」の意味への理解が課題となる教材であるといえる。そこで、中心発問に迫るまでに「白ゆり」の意味が理解しやすくなるような発問を用意したい。仏教の修行に対し真面目に励んできた智行と白拍子を追いかけ出奔した道信という性格や生き方が異なる二人が、ともに自己の弱さや醜さに苦しみ、それを乗り越えていくことで自己の強さや気高さに気づき、よりよく生きていこうとする姿が描かれている。自己を見つめることによって己の弱点に気付く克服しようとする二人の共通点を捉えつつ、道信、智行それぞれの心境やその動機を探っていくことで、深くねらいに迫ることのできる教材である。

#### 3-5 本時のねらい

月光に輝く白ゆりを見て涙する主人公の心の変化を通して、人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、よりよく生きていこうとする道徳的実践意欲を養う。

#### 3-6 本時の展開

時間	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	教材の確認。 先日京都へ遠足に行ったとき、いろいろなお寺を巡ったと思います。今日の道徳の授業は、そのお寺のお坊さんのお話です。	・教材への方向づけをする。
展開	1. 教材「二人の弟子」の範読を聞く。  2. 内容を理解する。 *何があったの？ ・道信が白拍子を追いかけ本山を出奔した。 ・道信は女房を病で亡くし、死のうと思った。 ・道信はフキノトウを見て、もう一度修行をやり直したいと決意し、寺にもどってきた。 ・道信が寺にもどることを智行は許せない。 ・道信は寺にもどることを上人に許された。	・心に染み入るように範読をする。  ・道信の人柄をおさえる。 ・智行の人柄をおさえる。

3. 道信のことを許容できない智行の気持ちを確認する。

発問①

上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。

(自分に対して)

- ・上人の決断が、自分の考えと違うから。
- ・道信より頑張って勉強してきたから。
- ・上人の言う通りに修行してきたから。
- ・自分はずいぶん修行に耐えてきたから。
- ・自分は何も間違っただけをしていないから。
- ・自分の生き方を否定されたようだから。

(道信に対して)

- ・道信は修行から逃げているから。
- ・道信はただ好きなことをしてきただけだから。
- ・道信は悪いことをしてきたから。
- ・道信には修行する資格がないから。

(上人に対して)

- ・上人は道信に甘い。
- ・上人は自分（智行）には厳しいから。
- ・上人の判断は理解できないから。

(人として)

- ・人は裏切ってはいけないから。
- ・人は脱落したものには厳しい態度で臨むべきだから。
- ・他の弟子に示しがつかないから。

発問①の補助発問

\* 上人は、なぜ、道信を許したのだろうか？

- ・大切な弟子だから。
- ・たくさんのことを学んできたから。

➡ 【追発問】

道信はどんなことを学んできたの？

- ・人の気持ち。
- ・人の痛み。
- ・命の尊さ。
- ・道信がもう出奔することはないと信じているから。
- ・道信は出奔したことを反省しているから。

4. 智行の道徳的課題について考える。

発問②の先行発問

上人は、智行に対して、どんなことを望んでいるのか。

(智行に対して)

- ・自分自身と向き合うこと。

➡ 【追発問】

智行はどんな自分と向き合えていないのか。

- ・頭でっかちな自分。
- ・醜い自分。
- ・独りよがりな自分。
- ・人の気持ちのわからない自分。
- ・いろんな経験を積むこと。
- ・謙虚になること。
- ・人の気持ちのわかる人になること。
- ・苦しんでいる人の味方になること。

\* 道信に対して上人の言葉

「お前は本当にたくさんのことを学んできたのだな」

\* 智行に対して上人の言葉

「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」

	<p>5. 智行の気づきについて考える。 発問②</p> <p>智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろう。</p> <p>(自分に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弱さ ・冷たさ ・傲慢さ ・醜さ ・心の狭さ</li> </ul> <p>(道信に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道信への嫉妬。 ・道信の健気さ。</li> <li>・道信が苦しみに負けず、懸命に生きていること。</li> <li>・道信がフキノトウを見たときの気持ち。</li> </ul> <p>(上人に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上人の弟子を思う気持ち。</li> </ul> <p>(人として)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の優しさやあたたかさ。</li> <li>・僧としての使命。</li> <li>・苦しんでいる人に手を差し伸べることの大切さ。</li> <li>・人間の素晴らしさや美しさ。</li> </ul>	
終末	<p>本時をふり返りながら感想を書き、発表する。</p> <p>今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の気持ちの分かる人になりたい。</li> <li>・自分の弱さや醜さと向き合って生きていきたい。</li> <li>・人は誰も弱さや醜さをもっているが、それらを克服しようと頑張っていることを知った。</li> <li>・人は弱さや醜さを克服しようとする強さをもっていることを信じていきたい。</li> </ul>	

### 3-7 板書計画

#### 二人の弟子

**道信**

- ・孤児
- ・本山を出奔

**上人**

**智行**

- ・名家の三男
- ・学問一辺倒な人
- ・立派な僧侶

**Q.上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。**

- ・道信は修行から逃げているから。 ・他の弟子に示しがつかないから。
- ・上人は道信に甘い。

**お前は本当にたくさん  
さんのことを学ん  
できたのだな**

**上人**

**人はみな自分自身と向き  
合って生きていかねばな  
らないのだ。**

**Q.上人は道信をどうして許したのか？**

- ・大切な弟子だから。
- ・たくさんをを学んできたから。
- ・道信は出奔したことを反省しているから。

**Q.上人は智行にどんなことを望んでいるの？**


- ・自分自身と向き合うこと。
- ・いろいろな経験を積むこと。
- ・謙虚になること。

**Q.智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろう。**

- ・弱さ ・冷たさ ・傲慢さ ・醜さ ・心の狭さ
- ・道信への嫉妬。 ・道信の健気さ。
- ・上人の弟子を思う気持ち。

**Q.今日の授業で考えたことや感じたことを書こう。**

- ・人の気持ちの分かる人になりたい。
- ・自分の弱さや醜さと向き合って生きていきたい。
- ・人は誰も弱さや醜さをもっているが、それらを克服しようと頑張っていることを知った。



## 4 授業の考察

### 4-1 ねらいにせまる発問づくり

内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」に迫るために、次の点に留意して発問を準備した。まず一点目、生活経験が乏しい中学生にとって、道信のどん底の苦しみからはい上がってくる強さへの共感は難しく、ど

ちらかという共感しやすいのは智行であると考え。そのため、生徒から出てくる意見として予想されるのは、「智行は心が狭い」などである。つまり、内容項目 B-(9)「相互理解、寛容」には気づきやすいが、内容項目 D-(22) の中でも特に「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心がある」ことには気づきにくい。そこで、上人の「お前は本当にたくさんのことを学んできたのだな」という言葉を挙げながら、発問①の補助発問を投げかけることによって、道信の苦しみや強さに共感させるようにした。

また、この教材は、「道信と智行」、「フキノトウと白ゆり」のように対照的な構造になっている。それにより、道信と智行どちらにも人間としてのよさやすばらしさがあるにも関わらず、道信は正しくて、智行は間違っているという浅い解釈を引き起こす可能性もある。そこで、上人の「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉を挙げながら、発問②の先行発問を投げかけることによって、智行も道信のように「自分の弱さや醜さと向き合い、それらを克服しようとする強さをもっていることに気づかせたいと考えた。

以上のことを踏まえて発問づくりを行ったが、生徒の感想（表 ）からは、内容項目 B-(9)「相互理解、寛容」に関する記述が多く見られ、本時のねらいに迫り切れなかったという課題は残る。これまでの発問の変遷を示す（表 1）。

表 1 発問の変遷

8/29(月) 事前研究①	9/20(火) 事前研究②	9/28(月) 事前研究③	10/13(木) 事前研究④	10/15(土) 模擬授業
[before 発問] ◎道信が「もう一度修行をやり直したい」と言った時、智行はどう思った。 ◎上人様が道信を許されたのを見た時、智行はどう思った。	[before 発問] ◎道信が「もう一度修行をやり直したい」と言った時、智行はどう思った。 ◎上人様が道信を許されたのを見た時、智行はどう思った。	[before 発問] ◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。 ◎あなたに悩みごとがあったら、智行寺と道信寺のどちらに相談に行きますか。	[before 発問] ◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。 ◎智行に上人はどんなことを望んでいるのか。	[before 発問] ◎上人が道信を許した時、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。 [補助発問] ◎上人は、なぜ道信を許したのだろうか。 ◎上人は智行に対して、どんなことを望んでいるのか。 [追発問] ◎智行はどんな自分と向き合っていないのか。
[中心発問] ◎月光に輝く白ゆりを見て涙を流した智行は、どんなことに気づいたのだろうか。 [補助発問] ◎人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならない」上人様のつぶやきから、上人は智行にどんな自分と向き合って欲しかったか？	[中心発問] ◎人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならない」上人様のつぶやきから、上人は智行にどんな自分と向き合って欲しいのか？ [補助発問] ◎智行にあって、道信にないものは？道信にあって、智行にないものは？ ◎あなたに悩みごとがあったら、どちら	[中心発問] ◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。 [補助発問] ◎あなたが智行の立場だったら、道信を許すことができますか。	[中心発問] ◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。 [追発問] ◎智行はどんな自分と向き合っていないのか。	[中心発問] ◎智行は白ゆりを見て、どんなことに気づき涙を流したのだろうか。

#### 4-2 道徳的価値の理解を深められる板書

本時の実践では、道信と智行を左右に配置して板書し、生徒がそれぞれの人柄や心情を対比しながら考えられるようにした（図2）。また、黒板の真ん中には、上人が道信と智行それぞれに言った言葉を提示し、道信には備わっているが、智行には不足しているものを生徒が表出できるようにした。そして、智行の心情を中心に考えながら、白ゆりを見て気づいたことや道信に共感できるようにキーワードとなる言葉については色を変えて書くなどして工夫した。なお、板書をする時間をできるだけ短縮するために、あらかじめ発問を書いたカードを用意しておくようにした。

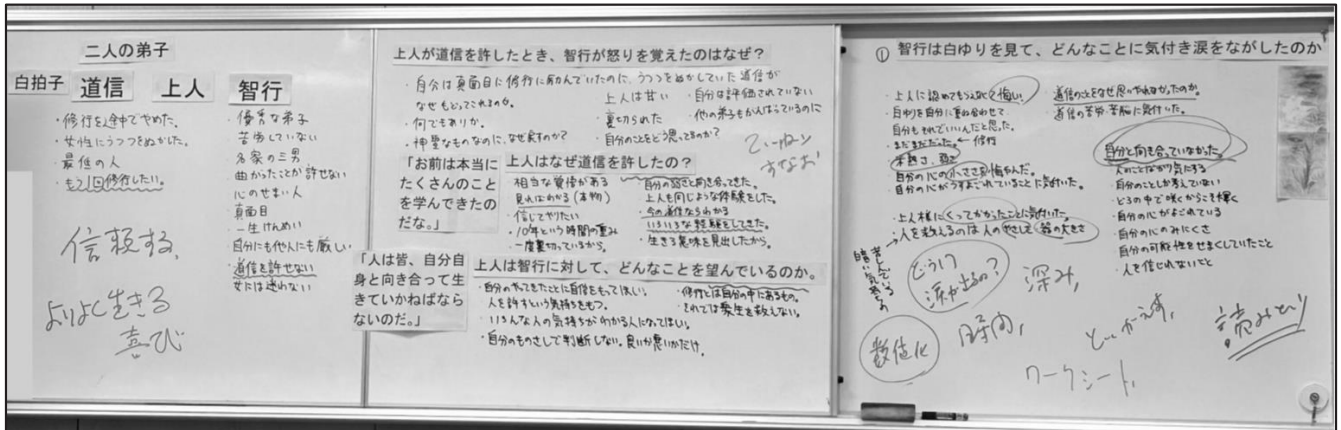


図2 本時の板書

#### 4-3 生徒のワークシートの記述内容を分析

##### 4-3-1 内容項目の分類

生徒のワークシートの記述内容を内容項目ごとに分類する（表2）と、D-(22)「よりよく生きる喜び」以外の内容項目に関する記述が多いことがわかる。特に、B-(9)「相互理解、寛容」の記述が多く、記述全体の約4割を占めている。その要因としては、「二人の弟子」という教材の特性と、B-(9)「相互理解、寛容」の中に、「それぞれの個性や立場を尊重」や「自らを高めていくこと」など、D-(22)「よりよく生きる喜び」とも被る内容が多く含まれていることが考えられる。

表2 内容項目による分類

内容項目	生徒のワークシートの記述内容	人数
自主、自律、自由と責任 (A-1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の芯を曲げずに強く生きることが大切とわかった。</li> <li>自分の正しいと思うことをやりぬこう。</li> <li>自分の意思を定められるようにしたい。</li> </ul>	9人
向上心、個性の伸長 (A-3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分と向き合う事の大切さが分かった。</li> <li>自分が怒っているときに自分を客観視することが大切。</li> <li>社会に出て過ちを犯して気づいてから努力するのも大切だが、小さい時からずっと努力をし続けることは大切。</li> <li>どんな環境においても自分自身の立場を見失わずに目標に向かって努力していきたい。</li> <li>人と自分を比べるのではなく、自分がどう成長しているかが大事。</li> <li>一人でも個性や魅力を発揮できるようになりたい。</li> </ul>	26人

<p>相互理解、寛容 (B-9)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なる者との出会いや考えから、新しく学ぶことができる。</li> <li>・これからは自分の気持ちを少しずつみんなに伝えたい。</li> <li>・なんでも完璧を目指すのではなく、なにかできないことがあっても心を広くして、仲間と関わっていききたい。</li> <li>・智行は視界が狭くなってしまっているのではないか。</li> <li>・自分だけががんばっていると思っていても周りの人も知らないところでがんばっているのだろうと思うので、周りの人と認め合って生活していきたい。</li> <li>・智行は智行でいいけど、道信にも良いところはある。</li> <li>・自分の正しいと思うことだけを信じるのではなく、時には批判的になり、他の人の考えや意見（多面的に）も大切にすべき。</li> <li>・白いゆりを見て泣けている時点で、智行の心はきれいではないか。私も花を見て泣くことができるくらい心がきれいでありたい。</li> <li>・やるべきこととやりたいことのバランスをしっかりとることが重要。</li> <li>・一度道信もしたように立ち止まって、立ち尽くして自分を振り返るということは大事だし、そこから友人や周りの人に寛容になれる。</li> <li>・結果だけに焦点を当てるのではなく、結果に埋もれてしまった感情、意志にも目を向けることが大切。</li> </ul>	<p>43 人</p>
<p>思いやり、感謝 (B-7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道信のような経験をしたことがなくとも、道信のような人に寄り添えるようになりたい。</li> <li>・相手の気持ちになって考えるということも重要。</li> </ul>	<p>2 人</p>
<p>友情・信頼 (B-8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが辛そうだったら、励ます、なぐさめるなど、友だちとしてできることをしていきたい。</li> <li>・誰かに自分の気持ちを相談することで少しは楽になれる。</li> <li>・一人で輝くことは難しく、誰かの協力や支え合うことで自分自身という個性や人を最大限表すことができる。</li> </ul>	<p>7 人</p>
<p>遵法精神、公德心 (C-12)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道信のように別の道でいくら学んできても、その道から外れた人にはそれなりの処罰を与えないと、その道で真剣に学んできた人には失礼。</li> </ul>	<p>1 人</p>
<p>生命の尊さ (D-19)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「良心」よりも“生きるため”が何より大事。</li> </ul>	<p>1 人</p>
<p>感動、畏敬の念 (D-21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然のものの力はすごい。</li> <li>・白ゆりの小さな生命の美しさや力強さに感動した。</li> </ul>	<p>2 人</p>
<p>よりよく生きる喜び (D-22)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去にしてしまった悪いことが全て許されるわけではないけど、改心して正しい道にもどろうとする道信の姿勢がすごい。何か失敗しても、それを活かして改善したい。</li> <li>・道信から、一度失敗してもやり直せることを学んだ。</li> <li>・人として本当の姿を失ってはならない。</li> <li>・道信のように道を外れてしまうことがあっても懸命に努力して立派な人間になりたい。</li> </ul>	<p>20 人</p>



#### 4-3-2 テキストマイニングによる解析

生徒のワークシートの記述内容をテキストマイニングで解析した。ワードクラウド（図 3）と単語出現頻度（表 3）による分析では、「学ぶ」・「やり直せる」・「向き合う」・「関わる」・「目指す」・「信じる」などポジティブな言葉が多く出現したことがわかる。本授業のねらいである内容項目 D-(22)「よりよく生きる喜び」にある程度迫れたのではないかと考える。

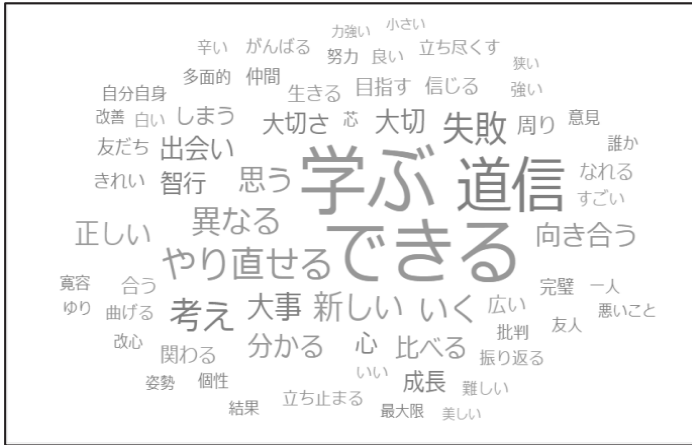


図 3 ワードクラウドによる分析図

表 3 単語出現頻度

動詞	スコア	出現頻度
学ぶ	33.18	30
できる	1.06	29
やり直せる	56.92	15
異なる	19.50	13
いく	0.33	13
思う	0.08	12
向き合う	12.34	11
分かる	0.46	11
比べる	2.64	10
しまう	0.08	7
関わる	1.11	6
目指す	0.90	6
信じる	0.38	5
なれる	0.27	5
合う	0.21	5

#### 4-4 道徳的価値の理解を深められるカリキュラム・マネジメント

本カリキュラム（図 4）を策定する上で、留意した点は次の 3 点である。

##### 4-4-1 中核となる学習活動の設定と関連づけ

中学生の時期は、人生に関わる様々な問題について関心を持ち始める時期である。同時に自分自身の人生について考えを巡らせ、いかによりよく生きるかを模索し始める時期でもある。このように、自身の生き方について、学校教育において特に大きく関わるのは道徳科であると考え、「二人の弟子」（出典：「私たちの道徳 中学校」 文部科学省）の授業を本カリキュラムの中核とすることとした。

その上で、広い視野から多面的・多角的に道徳的価値観について考えを深めることができるよう、下記のように特別活動（討論学校、修学旅行、体育大会、学芸会、音楽会、遠足）との有機的な関連付けに留意することとした。

##### 4-4-2 体験的活動の充実と道徳科との往還

平成 8 年の中央教育審議会答申をきっかけに、平成 13 年に学校教育法の改正が行われ、教育指導を行うにあたっては、体験的な学習活動の充実と努めることとされた。体験活動を通して、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤を育み、子どもの成長の糧となる役割が期待されている。道徳教育における指導の多様な展開の重要性は現行の学習指導要領にも謳われており、体験的活動の中で感じたことや考えたことを道徳科の授業に生かすことで、より深い学びが実現できるようにすることとした。

##### 4-4-3 保護者への周知と対応

道徳教育を推進していく上で、保護者の協力を得ることは大変重要である。特に、生徒にとって保護者は最も身近な大人であり、生き方について相談できる相手となる。そのため、保護者に対しては、道徳通信、学年通信、学校ホームページなどで学習内容と生徒の様子を積極的に発信するとともに、懇談会など保護者と対面する際には、情報共有に努めた。

# 仲間との対話を大切にする学校教育の展開

—自分の意見・意思を率直に表明し、よりよい学級集団を構築していく—

## 毎日の授業

「主体的・対話的で深い学び」の実践。どの教科にも全力で取り組む。自分たちで授業をつくる。

## 討論学校

「正義とは何か?」・「本当に大切なものとは何か?」



## 修学旅行

班でのオリエンテーリング（ウォークラリー）・テーマ学習、  
毎晩つづく生徒の自治的な話し合いの場「夕礼（せきれい）」



- ・ 言葉の大切さを再確認することが出来た。
- ・ 今後はこの修学旅行で学んだことを意識し、もっと話し合いの時は発言する、人をもっともっと信頼することが大切であると思った。
- ・ 空気がすごく重くてしんどい時があったけど、腹を割って話す機会でもあった。今後は、自分の選択や決断を曖昧にせず生きたいと思った。

## 附中三大行事（体育大会・学芸会・音楽会）

「この行事で得たいものは何か?」・「私たちの目標は何か?」



## 京都遠足

卒業までの最後の校外学習、「今までにできなかった課題は何か?」課題を決めて、班で取り組む。

## 特別の教科 道徳「二人の弟子」

D-(22) [人間の気高さ] 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。

図4 他の教育活動との関連

## 5 おわりに

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」に「道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性」と記述されていることから、内容項目 D-(22) は道徳性そのものをテーマとして掲げていると解釈することができる。また、内容項目 D-(22) をねらいとして道徳科授業を行ったときに、生徒のワークシートから幾つかの内容項目に関する記述が見られた（表 2）ことから、内容項目 D-(22) には様々な道徳的価値が含まれていると考えることもできる。

現場教員は、内容項目 D-(22) をねらいとする道徳科授業に臨んだとき、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きること喜びを見出すこと」という文言通りの発言や記述を生徒に求めてしまいがちである。しかし、先述したことから、内容項目 D-(22) をねらいにおいた道徳科授業では、生徒が様々な道徳的価値を表出することを積極的に認め、肯定的に高く評価していくという意識を現場教員が持つことが大切であると考えられる。そして、この意識変革が、D-(22) をテーマにした道徳科授業実践の敷居を低くする一助になるのではないだろうか。道徳科授業のさらなる充実・発展のために、これからも道徳科の内容項目についての理解を深めていきたい。

## 6 参考文献

- 1) 押谷・柳沼（2014）「道徳の時代をつくる！」教育出版
- 2) 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」教育出版
- 3) 日本キャリア教育学会（2008）「キャリア教育概説」東洋館出版
- 4) 今木重行・今澤宏太（2022）「将来の生き方を考えさせる道徳教育—道徳・総合・特活のカリキュラム・マネジメント—」『道徳教育学論集』大阪教育大学道徳教育学分野（20）、1-18.
- 5) 文部科学省(2016)道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）』
- 6) 大阪教育大学附属平野小学校（2017）「平成 28 年度研究開発実施報告書（第 1 年次）【別紙資料】」
- 7) 大阪教育大学附属平野小学校（2018）「平成 29 年度研究開発実施報告書（第 2 年次）【別紙資料】」
- 8) 「考え、議論する道徳」を実現する会（2017）『「考え、議論する道徳」を実現する！』図書文化
- 9) 寺西克倫（2022）．「自己の生き方を深め、未来への見通しを持つ道徳科の授業づくり」『道徳教育学論集』大阪教育大学道徳教育学分野（20）、61-74.

添付資料

道德通信（3年A組）

どうとく通信

文責：藤原 孝雄  
発行日：2022年11月18日

3年A組のみなさん！よく考え、よく発言できました！感想もしっかり書きました！その感性が素晴らしい！

11月4日(金)に、「よりよく生きる喜び」というテーマで、「二人の弟子」という教材を使って道德の授業を行いました。A組の生徒たちは、教師の発問に対して、一生懸命に考えながら自分の意見を発表してくれました。

「二人の弟子」を読んでいると、2017年に105歳でお亡くなりになった日野原重明先生の言葉を思い出します。

『鳥は飛び方を変えることはできない。動物は這い方、走り方を変えることはできない。しかし、人間は生き方を変えることができる。』

「人間だけが生き方を変えることができる」のはなぜなのでしょう？人間だけが道德的な気づきをすることができるからだと思います。皆さんの道德的気づきが見られた生徒たちの感想を紹介させていただきます！



乗校で見つけたフキノトウ

- どんな環境においても自分自身の立場を見失わずに目標に向かって努力していきたいと思いたい。通信のように道を外れてしまうことがあっても懸命に努力して立派な人間になりたいです。
- 人と自分を比べるのではなく、自分がどう成長しているかで見よう。
- 人のことを言う前に自分でがんばる。
- 通信からは、一度失敗してもやり直せることを学んでいる。
- 自分も何事もあきらめずに取り組んでいこう。
- 今まで途中であきらめてしまったことがあったけど、例え逃げ出してしまったとしても通信のようにもう一度やり直そう。
- あきらめずに最後までやり抜くことの大切さを習行から学んだ。また、一度は逃げ出しても更生しようとする気持ちが大切。
- 一度道をはずれしてしまっても、夢を追いかけることをやめようということがあっても、最後まで自分のやりたいこと（夢）を追いかけて続けたいと思います。
- 一度道に迷ってしまったとしても、諦めずに生きていければなんとかなるということ。
- 一度諦めてしまったことをもう一度やり直したいと思ったら、そこで無理だと思わず、今度こそ諦めて頭を下げ、やり直せるようにしよう。今までで学校生活でも何かが諦めてしまったことがあるので、これからの道で、これからの道で、これからの道で大切にしたい。
- 失敗しても反省をして何事も立ち上れる通信はずい。私も通信を見習って、学校生活をすすぎしていきたい。
- 集団行動の上で友達やがやっているから、自分もするのではなく、しっかり自分の志をもつことの大事さ。
- 通信のように悪いことをしてしまっても、反省してそれをもう起こさないようにすればいい。習行のようにコツコツ勉強していくことも、どちらも大切だから、そのまま自分自身を見つめ、志をしっかりと持ち、自分をもつていこう。
- 他人と自分の考えや進み方がちがっても、自分の考えや行動に自信を持って志のある人になりたい。また、自分の行動をふり返られるようになりたい。
- 自分の正しいと思うことをやりぬくこと。
- 自分が正しいと思うことをつらぬくことが難しいことが分かった。学校でも話し合いのと

きも、それを意識していきたい。

・間違えた他人や自分を許して機会(チャンス)を与えることができるようになる人になりたい。

・友だちが何かミスをしたときは、責めるのではなく、認めて優しく接することができるようになりたい。

・自分が何かミスをしたときに、すぐに他人のあら探しをしてしまっ、人の悪いところばかりを気にする癖が部活や修学旅行などで出てしまうことがあるので、まずは自分を見つめて直してから行動を改めたい。

・上人のように許す心を持ち、友と接し、自分自身と向き合い、勉強に励みたい。

・今まで小さなことでイライラしてしまっていたけれど、上人のように相手の心情を考慮して寛容な心をもつことが大切だということが改めてわかった。

・人生は楽もあれば苦もあるが、人として本当の姿を失ってはならない。学校では、たくさん楽しみたいと思った。

・自分にもたくさん間違えたこともあるし、それで終わりとして考えるのではなく、もっとこうでできた反省や、これからのにつなげることができるよう行動することが大切だ。

・学芸会の練習で少し関係のないことをしてしまったので、今後はそのようなことがないようにしたいです。

・この学校ではテスト前に必死にテスト勉強をする人もぎざぎざで自分のやりたいことをしている人もいたが、勉強などやるべきことと、自分のやりたいことのバランスをしっかりとることが重要。

・ある人がまじめに提出物をやっているのに、人のものを写している人と同じように成績をつけられていくことがあると思っていて、今回の習行と通信を重ねて考えた。どちらの立場でも思う事があると思うので、何も言えない気持ちになりました。私はどちらかという道通信のようなタイプなので、今回の授業で改めてまともに生きていけたい。

・ひたすら修行することだけが正しいのではなく、様々な経験を通して自分自身と向き合うことが必要。

・今まで自分自身について考える機会があまりなかったの、今回の授業で改めて見つめ直すことができた。これから自分の将来や自分自身について考えることが増えると思うので、この授業で学んだことを忘れず活かしていきたい。

・きつことから逃げ出してしまっ、また帰ってきたても快く受け入れられない。人を照らせるような人になりたい。

・人を照らせる白ゆりの人になりたい。

・人を照らせる存在になりたい。

・とあることをあきらめたり、逃げたりしても、そのこと以上に大切な経験をつむことが大切だと学んだ。

・通信のように別の道でいく学んできても、その道から外れた人にはそれなりの処罰を与えないと、その道で真剣に学んできた人には失礼だと思う。これは学校生活でも同じで、私は通信にも上にもなりたくないと思っ。

・自分だけががんばっていると思っ、周りの人も知らないところでもがんばっているのだからと思うので、周りの人と認めあって生活していきたい。

・少し道を踏み間違えても、自分の悪かったところに気づいて、正しい道に戻ろうとすることは大切だと思っ。毎日頑張っ、って理不尽なことがあっても自分を信じて頑張ろうと思っ。

・他人と自分の考えや進み方がちがっても、自分の考えや行動に自信を持って、志のある人になりたい。また、自分の行動をふり返られるようになりたい。

・自分自身と向き合うことが大切だと改めて感じた。

道德通信（3年B組）

どうとく通信

文責：藤原 孝雄  
発行日：2022年11月18日

3年B組のみなさん！よく考え、よく発言できました！感想もしっかり書きました！その感性が素晴らしい！

11月4日(金)に、「よりよく生きる喜び」というテーマで、「二人の弟子」という教材を使って道德の授業を行いました。B組の生徒たちは、教師の発問に対して、一生懸命に考えながら自分の意見を発表してくれました。「二人の弟子」を読んでいると、2017年に105歳でお亡くなりになった日野原重明先生の言葉を思い出します。

『鳥は飛び方を変えることはできない。動物は這い方、走り方を変えることはできない。しかし、人間は生き方を変えることができる。』

「人間だけが生き方を変えることができる」のはなぜなのでしょう？人間だけが道德的な気づきをするので、他人と自分の心を比較しなくていいのかなと思っ。周りと比べて型にまはるとはかばかきいものではなく、ちょっとはみ出して普段から学べないことを学んでみるのもありなのかなと思っ。僕も自分だけ苦労している他人はあまり苦労していない時に「すごい」と「羨ましい」と感じたことがあるが、そのようなことって習行するのではなく、他人ではなく自分自身に目を向けていきたいと思っ。

通信も習行も自分の過ちに気づき、向き合っている。過ちから目をそらさないようにしたい。

習行のように「自分はここまで頑張ったから、やり逃げしなかった人間は愚かだ」と考えてしまうことは、人間だから少なからずあると思うけれど、自分だけの考えにとらわれず、学問も大切だが、それ以上に大切なものもあるのではないかと考えた。考えながら残りの学校生活を送っていきたいと思っ。

僕は、今まで嫌なことをされても笑ってごまかして「いいよ、いいよ」と言っていたけど、少し怒ったくらいで怒るような人はいない。この話を聞いて思ったので、これからは自分の気持ちを少しづつみながら伝えたいいなと思っ。

なんで完璧を目指すのではなく、なにかできないことがあっても心を開いて、仲間と関わっていきたい。よく学校生活で意識される「失敗してもいいからたくさん挑戦しよう」といった言葉を通信は体現しているのではないと思っ。習行は失敗もしていないが、挑戦もしていないので、もしかしたら境界が狭くなってしまっているのではないかなと思っ。

習行は、自分の心が狭く、許すことをしていなかったことを上上の言葉で知らされた。自分だけが上手いけど、友だちがうまくいっているとき、どうしても悔しさを隠さずかき出すようなものがあると思っ。結局そういうのは自分がちゃんとしていないだけだから、友だちとはとても努力していたりするから、まずは自分が変わることを考えたい。

自分が正しいと思っ、周りからすべてではなく、どんなに曲がって寄り道しても困難をたくさん乗り越えてきた道のりが強いと思っ。私も自分がかんがっていたのに、あいつは…と思っことがあるので、みんな苦勞しているというのを忘れられないようにしようと思っ。

上人のような広い心を持つと思っ。

相手には相手のしたいこと、なりたいたのがあって、自分は自分のプライドがあると思っ。だからといって自分のプライドに物を言わせて相手に不寛容になってはいけないかなと思っ。(白ゆりは清らかなる象徴で、自分の相手の不寛容な黒い気持ちを照らされて、自分の愚かさにも気づいたのかなと思っ)

本当に真面目な人よりも、ちょっとぶかぶかした人、失敗したことのある人が説得力が高いという意見にとっても共感した。成功かしてない人への失敗を知らない、失敗を知らない人への失敗を話しても効果がない。私の意見は、習行は習行ではないけど、通信にも良いところはあります。だから私も同じように、自分の正しいと思っ、ただでいいと思っ、時には批判的になり、他人の考えや意見(多面的)にも大切にするべき。

習行が最後に白ゆりを見て泣いたという場面を、白ゆりが通信の心の白さを表しているように見えたと思っ。白ゆりを見て泣いた時点で、習行も心はきれいではないかなと思っ。私も花を見て泣くことができるくらい心がきれいでありたいと思っ。習行のように心を拓くことがあっても、元の心に戻れるようにしたい。

私も習行と同じように思うと思うので、学ぶことは多くありました。通信の方が心が白という意見が清

たけれど、それに気づいて涙を流せる習行も十分心が美しいと感じました。

・修行を逃げて、外で遊んで暮らしていた通信に怒りを覚えた習行の気持ちもとてもわかる。多分、あまり努力していないのに何でもできてしまう人を見ただけで感じてるうらやましさも少し似ているのだから。それでも、自分の心の狭さに涙して反省した通信は偉いと思っ。

・自分だけの考えや主観のみで行動・判断するのは、相手があるかなどをしっかりと考えることが大切なのではないかと思っ。自分も相手とも向き合うことが必要と思っ。

・習行は、自分自身の正義が本当に正しいのか疑問に感じたのだと思っ。私も自分の中で型にハマって物を見てしまうことがあるので、疑うことと許容することを忘れず、これからは自分を見つめ、向き合っていこうと思っ。

・三人の違った性格を見て、それぞれの主張は正しいと思っ。また自分は習行のように、通信とは違って負のことを経験したことが少ないので、自分はそのような経験がなくとも、そのようなことに寄り添えるようになりたいと思っ。

・習行のようにコツコツがんばっている人となり自分がかんがらなければいけない通信のつらさは分かりました。同じように自分はずとがんばっていたのに、なまけていた人がもう一度チャンスを与えてくれた人があること、それを受けて自分の心の中にきさることを表わされるつらさもわかります。誰か自分

の気持ちを相談することでも少しは楽になるのかなと思っ。

・最後に、純白のゆりがきれいに見えたのは、月夜に照らされた池の水がきらきらしていたからこそきれいに見えたと思っ。このように人も一人ひとりが輝くことは難しいかと思っ。そのため、学校生活でも誰かの協力があり、支え合うことで自分自身という個性や人を最大限表すことができるのではないかなと思っ。

・自分だけが上手いけど、友だちがうまくいっているとき、どうしても悔しさを隠さずかき出すようなものがあると思っ。結局そういうのは自分がちゃんとしていないだけだから、友だちとはとても努力していたりするから、まずは自分が変わることを考えたい。

・自分が正しいと思っ、周りからすべてではなく、どんなに曲がって寄り道しても困難をたくさん乗り越えてきた道のりが強いと思っ。私も自分がかんがっていたのに、あいつは…と思っことがあるので、みんな苦勞しているというのを忘れられないようにしようと思っ。

・僕もたくさん怒られたり泣いたことを経験して活かしてきたことがあるので、「失敗は成功の母」という諺にもあてはまるように、失敗をしてきた人が失敗から逃れる方法を知っているで、自分も失敗を活かして生活したいと思っ。

・通信をして人生のどん底をみてもから芽生える信念はとて強く、たくましいものであること。他人のことを考えるのは、自分と向き合っ、からはじめて行うものであること。

・私は、この話を聞いて、人はどんな過ちをおかしてしまっ、でも、よく生きてい、こんなことをしたい、などという強い心や信念があれば、やり直せるということを感じた。学校生活やそれ以外でもたくさん過ちをおかすが、それでホキッと折れるのではなく、涙と輝けるような心を持ちあきらめずに頑張りたいと思っ。

・通信のよう一度あきらめ、次は挑戦することができるようになりたいと思っ。また、相手の気持ちになって考えるということも重要だと思っ。

・学校や家で勉強を学ぶことも大事だが、生きていく上での経験を積み重ねることだと思っ。僕もいろいろ失敗してきたので通信の気持ちがよくわかった。習行が少しかわいそうだった。

・もちろん通信のように嫌なことから逃げ出してしまっ、習行のようにならないことからも逃げない人の方が大人のように感じますが、長い人生を見たら、目の前に来たものを何でも受け入れようやっきな

ことよりも、時には逃げることもできる人間の方がより良いかなと思っ。

・習行のように勉強だけで生きていくこともないし、通信のように人生経験は積んでいても勉強ができていないのもよくなるので、勉強も遊びもバランスよく両方できるようにするのは難しいと感じた。

・私はどちらかという道通信の方で、たまにやらないといけない事をほったらかしにしています。ですが、通信は反省をして直ってきたので、私もそれを見習って、改善したいと思っ。

・今の環境とかわらな、知らない世界に行くことも大事だと思っ。まだやったことのないことに挑戦したいと思っ。

・結局何を考えたのかよくわからない。通信が結果的に人間性が成長したといえ、決して見習えるものではないと思っ。

道徳通信（3年C組）

どうとく通信 文責：藤原 孝雄 発行日：2022年11月18日

3年C組のみなさん！よく考え、よく発言できました！感想もしっかり書けました！

その感性が素晴らしい！

10月28日(金)に、「よりよく生きる喜び」というテーマで、「二人の弟子」という教材を使って道徳の授業を行いました。C組の生徒たちは、教師の発問に対して、一生懸命に考えながら自分の意見を発表してくれました。「二人の弟子」を読んでいると、2017年に105歳でお亡くなりになった日野原重明先生の言葉を思い出します。



乗鞍で見つけたフキノトウ

『鳥は飛び方を変えることはできない。

動物は這い方、走り方を変えることはできない。』

しかし、人間は生き方を変えることができる。」

“人間だけが生き方を変えることができる”のはなぜなのでしょう？人間だけが道徳的な気づきをするのであっていいと思います。たくさん道徳的気づきが見られた生徒たちの感想を紹介させていただきます！

- ・話し合う必要がある。素直に受け入れる必要がある。
- ・大きな心をもつことが大切。
- ・寛大な心を持つことが大切だと改めて感じた。
- ・自然のものはすごい。
- ・周りが見えなくなったり、心が狭くなってしまったりしてはダメで、社会のたくさんのおもてなしも大切である。
- ・自分と向き合う事の大切さが分かったと思う。また、自分が怒っているときに自分を客観視することが大切だと思った。
- ・自分はこれまで教えを守ってがんばっていたのに途中でやめた通信を簡単に許した上人を見て、智行が気分を悪くするのも分かるけど、人を受け入れるのは大切なことだと思った。
- ・大事なことの気づきは、少し道徳から外れたところで見つかることもあると感じた。
- ・人間は表・裏があり、善を求める一面と悪な一面を合わせること、1人の人間ができていないことを理解し、それを受け入れるだけの寛容さやゆとりを持つことが大切である。
- ・一度失敗した人でもその人が改心したと感じたら許すことも必要。
- ・一度諦めたことでもいろいろやったら上でやりとける覚悟があるならもう一度やってみてもいい。
- ・自分自身のことを考える。これが第一だとは思。しかし、人のことを考えることも大事で、心を

- 広くして、仲間、友達と接していけるような人になっていきたいと思います。また、友だちが辛そうだったら、励ます、なくさめるなど、友だちとしてできることをしていきたい。
- ・私が智行の立場としても、同じように智行のことをすぐには受け入れられないと思います。一度自分を裏切るようなことをしたのに、また戻ってくるという通信のことをはじめは理解できなかったろうなと思います。上人は人としても僧としても立派な人なんだなと思いました。
- ・寺で学園をすることだけが「学ぶ」ということではなく、普通の生活を送る中にもたくさんの学びがあり、そういう学園の面だけでしか学べていなかった智行のようなせまい視野にならないで色々な面から学んでいきたいと思います。
- ・人間があやまちをしたとしても純粋な心があればそれを許して生きてほがよい。
- ・最初の方は、人は堕落する生き物だなという気持ちで読んでいたが、フキノトウのところまで少し難しく感じた。ラストは智行の嫉妬とかそういうのもあったのか？
- ・一度過ちを犯した人間を許せる、理解できる上人のような人が社会に増えると良いなと思いました。前科者に対して厳しい目をつける日本社会がかえって更生をさまたげているような気がする。
- ・厳しくするだけではなく、優しく許すことも時には大切だと思った。
- ・どれだけ悪いことでも、違う角度から見たら、良いことも見つかるかもしれないと思った。
- ・人を許すことは難しいが、人を許すことでその人から学ぶものがある。
- ・人間の心は1つではなく、成功だけではない。失敗も受け入れて、それと向き合ってこそ、本当に良い人間になれる。心を大きく広くもつことが大切。
- ・一つことだけから学ぶのではなく、様々な経験をして、そこから学ぶことが大切だと感じた。常に自分が正しいと思わずに間違いを受け入れることが大切だと思った。
- ・過去にしまった悪いことが全て許されるわけではないけど、改めて正しい道にもどうとずる道徳の姿勢がすごいと思った。何か失敗しても、その後の対応に気を付けていきたいと思う。
- ・社会に出て過ちを犯して気づいてから努力するのは大切だが、小さい時からずっと努力を続けることは大切だと思った。
- ・失敗から学ぶことと、勉強をし続けて学ぶことでは、失敗から学ぶことの方が価値のあるものだと思った。「良心」よりも「生きるため」が何より大事。
- ・上人様の言葉にあっという間に、苦しいことや悲しいことがあったとき、自分を見つめるのと同時に、周りに支えになる人が気持ちよくなるのは楽かもしれないと思った。
- ・白ゆりを見るときに涙を流した理由の解釈がたくさんあって色々な視点から考えることができるのだなと思いました。
- ・寛大な心を持ち、その人をよく知り、寄り添い、受け入れてあげることが大切だとわかった。
- ・人は誰でも過ちを犯すものだから、犯した後の行動が大切だと思いました。そして、友人などが過ちを犯しても、許すことができる、怒りに身を任せない人間になりたいです。
- ・今回の教材はいつもよりも内容が少し難しかったのですが、その分考えさせられました。上人の心の広さがすごいと思ったし、人としてとてもできている人だと思いました。

道徳通信（3年D組）

どうとく通信 文責：藤原 孝雄 発行日：2022年11月18日

3年D組のみなさん！よく考え、よく発言できました！感想もしっかり書けました！その感性が素晴らしい！

12月(土)に行われた第69回教育研究会では、「よりよく生きる喜び」というテーマで、「二人の弟子」という教材を使って道徳の授業を行いました。20数名の他校の先生方が参観される中、3年D組の生徒たちは、教師の発問に対して、一生懸命に考えながら自分の意見を発表してくれました。参観された先生からも「附属の子はよく考え、よく話すね！」とお褒めの言葉をいただきました。生徒たちの頑張りがとてもうれしかったです！



『鳥は飛び方を変えることはできない。

動物は這い方、走り方を変えることはできない。』

しかし、人間は生き方を変えることができる。」

“人間だけが生き方を変えることができる”のはなぜなのでしょう？人間だけが道徳的な気づきをするのであっていいと思います。たくさん道徳的気づきが見られた生徒たちの感想を紹介させていただきます！

- ・智行は善、楽しんで学ぶに向かう心を持っていただけ、道徳がなくなるとは特になんか前回のめりになって自分を立ち返る間も思いのままに自勝心と優越感で埋めてしまったのかなと思った。だから、一度通信もしたように立ち止まって、立ち戻って自分を振り返るということは大変だと思ったし、そこから友人が周りの人に寛容になれると思う。
- ・一度道を外れたからといって悪いことだとは思わず、それだけで体験できないことをしていると思うので、認めないといけないと思った。人生ではいろいろな体験をすることが大切なんだなと思った。
- ・人のことには口を出したり、人に対して悪く言う方が、自分自身の弱さや悪い所と向き合うよりずっと楽ではあるけれど、弱さに向き合える人こそが真の強い人なのではないかなと思います。私は、弱さに向き合うのが少し怖くて恐るにやけれど、少しずつ自分をつめられる人になれるかなと思います。
- ・私も智行のように、自分が真面目にやっていることを不真面目にしてきた人が許され、認められているのを見るとすごく不公平に感じて怒りを見えるのでなく、しっかりと自分と向き合えるようにしたい。
- ・智行は、これから修行を続けたら修行に対して強くあっていたが、人の人生はその本人が決めるもので、人の人生に対してあたる必要はないと感じた。通信には問題はあるが、智行のように人に対してあたるものもないと感じた。
- ・一度過ちを犯しても自分の強さなどに気づくことができれば、また前に進んでいくことはできるのかなと思った。他人のことばかりを見るのではなく、しっかりと自分と向き合えるようにしたい。
- ・船長以外でも学ぶところはあります。自分の弱さや向き合うことも大切。
- ・自分が行った、または相手が行った結果だけに焦点を当てるのではなく、結果に埋もれてしまった成長した感情、意志にも目を向けることが大切であると思った。
- ・智行と道徳の2人の気持ちや物で表現されており、とても分かりやすかった。どちらの考え方も正しいと思ったので、とても難しかった。
- ・智行は通信よりも上だと感じているけれど、だからと比べるのではなく、自分自身と向き合うことが大切だということに気づいたのだと思った。他人との比較ではなく、過去の自分と向き合うことが大事だと分かった。
- ・智行に共感する部分や道徳、上人に共感する部分もあり、感情がゆさぶられた。
- ・どちらの視点から物事を考えるかによって感じられるものがそれぞれ違うということがわかった。二人の思いが一緒であったのが、2つに別れる、そこから智行は新しいものも気づかされたという、自分と異なる者との出会いや考えから、新しく学ぶことができたと感じた。
- ・人にはそれぞれの生き方があり、それらはどれもまちがっているということとは絶対になく、自分の思うように生きて自分の道を見つけることが出来るということが感じました。
- ・この状況だったら、私も智行のように怒ってしまってもいいけれど、上人が智行に言っていた、自分自身と向き合うことが大切という言葉で、道徳の気持ちも理解できた。自分を見つめて、行動してみようと思

- 思いました。
- ・自分自身、時に納得できないことがあるが、智行のように何か気づきをもてた良いと思った。人は結果だけでなく、心でみるのも大切だと感じた。
- ・修行するという新しい世界では得られない経験からも学ぶ事があるということがあったように色々なことを学ぶには色々な人や場所を体験することが大事。
- ・1つの中に執着して集中することも大切だが、今まで経験したことのない知識を得るためには、まわりを見ることも大切である。
- ・あんな花には本来もつべきもの心を表しているのかと思った。多分あれから互いががんばり、すごい人にならなくとも思った。
- ・自分も智行と同じように勉強するだけでは気づいていないことがたくさんあると思うので、気づいていきたいと思った。
- ・今日学んだことは、人のことは気にせずに自分だけの人生を歩んでいかねばならないということ。人に流されたり、妄な嫉妬感を抱くのは無駄であり、自我を強く生きていかなければならないと感じた。そうすると人生がもっと充実すると思う。
- ・自分の間違いに気づいて、もう一度やり直したいと思うことは、とても難しいけど、そう思える心はとても大切だと思った。新しい自分になるためには、それを変える人がいることも大事だと思った。
- ・上人の「人は皆、自分と向き合って生きていかねばならないのだ」という言葉に感動した。人には、それぞれその人なりの生き方があるということがわかった。また、それを口に出すのはよくない。
- ・相手の気持ちになって考えるということも大切だが、相手について考える前に自分自身が自分の弱さや足りない所を理解し、物事に対して寛容であるような人間になりたい。
- ・どんな時でも自分をしっかりと生きていきたいと思った。人の人生はその人のものだから、他人が口出すべきものではないと感じた。一度諦めても心の底からもう一度やり直そう、自分を愛しようということはいいことであると感じた。
- ・修行だけでなく、人々と接する中でしか学べないものがあり、一度道から外れてしまっても再び戻ることでできる強い意志が大切だとわかった。
- ・自分と向き合い、よりよい自分になるためには、ただ修行するだけでなく、社会で生きていくことで、自分の弱さ(強さ)を見つめることが必要である。
- ・道徳には修行をやめてからしたたくさんの経験があり、智行には修行で学んだ学びがあるので、互いが合うのではなく、昔のように良い友達になることで二人はこれからは成長できるのではないかと考えた。互いの弱みや強みに気づき、二人の弟子をとることにした上人様を私はすごく尊敬した。
- ・私は最後智行が涙を流したのは、修行のことを人にしながらもどこまで道徳を強く非難する意地悪な心があったが、白ゆりをもう一度純粋に学ぶとしての道徳に重ねて、疑い、ひどい心をもった自分を許してほしいという意味で涙を流したと思う。純粋な気持ちで人生を変えることがよくわかる話だと思った。
- ・最後の問いで、小幡さんと同じように、暗黒の道徳の今までのつらい状況で、白ゆりが今道徳が思うより直したい意志と見えて、智行はそれをつぶそうとしていたことに気づいたと思った。どれだけつらいことであっても、やり直そうと思える気持ちがあるなら、その気持ちはこれまでより強いはずだから、捨ててはいけないと思った。
- ・はじめに読んだときは、智行に共感し、道徳が戻ってきたことに対して不信感を覚えたが、意見をまとめていくうちに、道徳には弱体にあっても、もう一度修行をやり直したいという強い覚悟があったと感じ、人間は自分の過去の過ちから気づいて悔いだけでなく、奮起で改め直していくことができると思った。
- ・道徳は智行のやっていたことを悪だと思ひ、自分が正義だと思っていたけれど、白ゆりを最後に、今までしてきてきたことと向き合い、自分自身と向き合っていく前に進もうとしている智行が白ゆりなのだ気がついたと思ひました。
- ・自分が修行だったと同じように道徳に対して許さず怒ってしまうと思います。けど、上人が言っていた「自分自身と向き合おう」という言葉にハッとしました。他人のことは自分が出して、どうにかするのではなく、他人が決めたことを尊重するべきだとわかりました。とても考えさせられる教材でした。
- ・人それ以外の物の見方、とらえ方は違っていて、人のことを心配したり、怒ったりすることよりも、1番大切なことは、自分の意志で行動し、その意志に自信をもつことだと思いました。智行は勉強に励み、仲間になったが、それに対して道徳は勉強では学べないことをたくさん学んだ。道徳は自分の意志で行動して、最後には智行がそのことに気づいたのではないかと思う。
- ・白ゆりとは一つ一輪でも純粋の白い輝きをはなち、美しく咲き誇っていて、智行はその小さな生命の美しさや力強さに感動したのではないかと考えた。また、私も集団や社会の中で輝きをはてるのも大事だが、一人でも個性や魅力を発揮できるようにしたい。

## The Way of Teaching in Moral Materials with the Content Item "The Joy of Living Better" for Moral education at Junior High Schools

— From the Lesson Practice of Two Disciples —

SHINOHARA Takao

**Abstract:** I designed a moral education class on content item D-(22) "The Joy of Living Better" through curriculum management with a school excursion to cultivate an attitude in which students try to find the good in everyone as human beings. The material "The Two Disciples" is a long story that is difficult for junior high school students to understand deeply. However, I thought that students would be able to approach the aim of the lesson by exploring the characters' feelings and their motives, and I put this into practice. On the other hand, because this theme is magnificent and difficult to create questions to approach the objective, teachers tend to avoid teaching moral education classes with content item D-(22). Therefore, in this paper, I report on the lesson practice of teaching materials on this theme, and suggest a way to lower the barrier to teaching classes on this theme.

**Key Words:** Moral education classes, The joy of living better, D-(22), Two disciples